



●総会挨拶

「手稻歴史年表・追録版」の活用を！

手稻郷土史研究会 会長 永井道允

皆さま、本日は定期総会へご出席いただきありがとうございます。新型コロナウイルスは変異株も加わって猛威を振るっています。多くの団体が文書による総会の方式をとっている中、このような形で総会を開くことができました。令和2年度の活動を総括し、新年度の研究計画の策定にお知恵を拝借いたしたいと存じます。議案書や会報「郷土史ていね」と一緒に、「手稻歴史年表・追録版」がお手元に配られています。これについての経緯を述べさせていただきたいと思います。

歴史は時の経過とともにどんどん変わっています。先輩たちが『史料に見る手稻今昔～手稻歴史年表』を刊行してから 10 余年が経ちました。私の思い付きで「記録に残さないと手稻の歴史が消えていく…」と話したら、共感してくれる有志の方々がいて、たいへんな努力の結果、完成したものです。史実を収集する苦労、表にまとめる腐心は並大抵のことではありません。書式が思うような形にならず多少使いににくい面もありますが、既刊の『史料に見る手稻今昔～手稻歴史年表』の 121 ページ目以降に挟み込んでお使いください。

編集委員長の村元健治さんをはじめご協力くださった有志の皆さんに心から敬意を表し、お礼を申し上げます。郷土史研究に、ぜひ、追録版をご活用ください。

(令和 3 年 4 月 14 日「定期総会」より)



『手稻歴史年表』
(平成 22 年発行) と追録版

令和 3 年度 定例会 研究発表予定表

開催日時	内 容 (仮題)	発表者	
5月12日(水)18:00 中止	17世紀 イシカリ大酋長ハウカセと手稻	沖田紘昭	手稻郷土史研究会 会員
6月9日(水)18:15	手稻墓地に眠る思い出の人びと	一ノ宮博昭	手稻郷土史研究会 会員
7月14日(水)18:15	サッポロ発祥の地を歩く	渡辺 隆	手稻郷土史研究会 会員
8月11日(水)18:15	「山口バッタ塚」再考	杉浦正人	手稻郷土史研究会 会員
9月8日(水)18:15	茶話会 A:郷土史研究会と区民・教育現場との関わり 茶話会 B:手稻と馬(その2)	進行:阿保肇男 進行:濱埜静子	手稻郷土史研究会 会員
10月13日(水)18:15	山の手博物館ものがたり	若松幹男	手稻郷土史研究会 会員
11月10日(水)13:30	道内随一の靈場「太田神社」にコロナ退散祈願	三國 勲	手稻郷土史研究会 会員
12月8日(水)13:30	創立 50 周年 稲穂の JR 北海道札幌運転所	敷村朝生 氏	JR 北海道札幌運転所総務企画科 科長
1月11日(水)13:30	ウシのはなし	石原重隆	手稻郷土史研究会 会員
2月9日(水)13:30	「炭鉱排水」の果たした役割	佐々木光男	手稻郷土史研究会 会員
3月9日(水)13:30	茶話会(9月定例会)の報告	A・B 各リーダー	手稻郷土史研究会 会員

*会場は いずれも手稻区民センター 3 階 視聴覚室の予定ですが、変更の場合もあります。直近の定例会でご確認ください。

手稲郷土史研究会の令和3年度「定期総会」を開催

4月14日、手稲区民センター視聴覚室において、手稲郷土史研究会の令和3年度『定期総会』が開催されました。第1号議案「令和2年度事業報告」、第2号議案「令和2年度決算報告」、第3号議案「令和2年度会計監査報告」、第4号議案「令和3年度事業計画（案）」、第5号議案「令和3年度予算（案）」、第6号議案「役員選任」のそれぞれについて順次諮り、審議の結果、事務局原案のとおりすべて承認されましたので、ご報告いたします。新年度もよろしくご協力ください。



永井会長

令和3年度の役員と分掌は つぎのとおりです（敬称略）。会長＝永井道允、副会長＝立花邦雄（兼



定期総会 会場風景



区役所 手稲歴史資料展示コーナー

総務部長）・乙黒通子（兼 研究副部長）、事務局長＝林俊一、理事＝中島千恵子（会計部長）・川上義昭（総務副部長）・沖田紘昭（研究部長）・濱埜静子（研究副部長）・神川君江（研究副部長）・菅原純子（広報部長 兼 資料部長）・佐々木光男（広報副部長）。また、相談役には鈴木清士・一ノ宮博昭、監事には大沼靖男・釣本峰雄の各氏が就きました。

『定期総会』後は 役員挨拶とともに出席者全員による自己紹介が行われ、「仲よく楽しく、ふるさとの歴史を掘りおこし 次代へ伝えていこう！」と確認、和やかな雰囲気のなか散会となりました。

各事業がいよいよ始動——。9月には「視察研修旅行」が予定されているほか「手稲歴史資料展示コーナー」の充実や「手稲開基150年」に向けた啓蒙活動にも積極的に取り組んでいきます。なお、コロナ禍に鑑み、計画は変更される場合もあることを予めご承知おきください。



★人文系の情報紙で「手稲郷土史研究会」の活動を紹介 人文書専門の出版社 敬文舎（東京都新宿区）を母体とする「舎人俱楽部」では、「歴史を知る楽しさ、そして歴史が教えてくれる意義を広めていきたい」と、季刊の情報紙を発行しています。このたび編集者よりご連絡があり、当会の紹介をさせていただくことになりました。“手稲”を全国へ発信する良い機会ととらえ、対応していきます。

遺構・遺物は語る

軽川のリリー？！

市内で唯一ともいえるスズランの群生が「富丘西公園」（富丘4・5条5丁目）で見られます。このスズランは日本の在来種で、君影草の別名のとおり、観賞用のドイツスズランと比べると香りが淡く、葉の陰にひっそりと花を咲かせるのが特徴です。

「軽川といえばすぐ連想するものにリリーがある。又 鈴蘭とも呼ばれて昔から極めて有名である…其の匂いをたずねて私たちは可憐なリリーをあさり 東京の友人に送るのが年中行事だった…馬頭観音※の丘の上一面に咲いている…」と、昭和初期の新聞紙上でも紹介されるほど一帯はスズランの名所でした。昭和4年の火災で校舎を焼失した手稲中央小学校では、グランド整備の資金に“スズラン狩り”の入場料を充てたといい、校歌にも「香り豊かに白き花 すずらん咲ける…」と謳われます。※現在の富丘2条5丁目

ところが、都市化に伴い、スズランは次第に衰退していきました。公園造成のための調査で偶然発見された“生き残り”が、その後の地道な保全活動によって徐々に復活し、6月初旬、清楚な姿を楽しめるようになったのです。



[J] スズラン